

<様式2>

令和 2年 4月13日

公益財団法人 JKA
会長 笹部 俊雄 殿

特定非営利活動法人 栃木スポーツコミッション
理事長 砂川 幹男
(公印省略)

自転車競技普及事業の事業完了報告書

下記のとおり報告致します。

記

1. 助成事業者名	特定非営利活動法人 栃木スポーツコミッション
2. 助成事業名	第3期サイクルロードレース地域型総合育成システム Up B-ling System
3. 助成金額	助成対象総額 12,400,000円 助成申請額 4,000,000円 助成金交付決定額 3,000,000円
4. 事業実施日	平成31年4月1日~令和2年3月31日
5. 連絡先	〒321-0962 栃木県宇都宮市今泉町 2995-9 URL: https://www.blitzen.co.jp/team/stella/ 電話番号: 028-611-3993 メールアドレス: school@blitzen.co.jp 事務担当者: 植木 潤
6. 添付書類	1. 事業完了報告書(様式2、本書) 2. 事業報告書 3. 最終決算収支資料(経費区分、領収書) 4. 事業の実施内容及び成果に関する報告書(様式3)

以上

第3期サイクルロードレース地域型総合育成システム 予算執行状況(統括書)

2020/3/31 現在

1.収入の部

(ジュニアクラス、事務局)

経費項目	備考	暫定金額	実績合計額	差額
補助金	総事業費の3/4以内	4,000,000	2,250,000	-1,750,000
参加者負担金	入会金・月謝代(ジュニアクラス)	2,400,000	1,870,000	-420,000
	午会費(強化クラス)	2,980,000		-2,980,000
	ウェア代		280,000	280,000
	エントリー費		122,000	122,000
社内自己資金	(ジュニアクラス+強化クラス、合計)	3,420,000	2,000,000	-1,420,000
その他収入	高価利用料戻り	0	28,480	28,480
収入合計		12,800,000	6,664,460	-6,135,540

2.支出の部

(ジュニアクラス、事務局)

経費区分	経費種別	備考	補助金	自己負担金	認定金額	実績合計額	差額
JKA 補助対象	旅費	ジュニア実合宿・バスツアー研修 バス借上代	0	500,000	500,000	0	-500,000
		ジュニア実合宿 宿泊費	0	100,000	100,000	0	-100,000
	謝金	謝金 鈴木真澄選手 1名	1,600,000	400,000	2,000,000	2,000,000	0
		Ue H. ing System 事務局 人件費	700,000	1,700,000	2,400,000	900,000	-1,500,000
	臨時給付費	ジュニア+強化 両クラス合計	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,610,000	-390,000
	車両借上料	ジュニア+強化 両クラス合計	200,000	600,000	1,000,000	780,000	-220,000
	交通費	交通費(機材運搬、機材車移動経費)	0	370,000	370,000	28,950	-341,050
	機材・備品借上料	ローラー台、その他機材	200,000	600,000	800,000	360,000	-440,000
	レースエントリー費	エントリー費	0	0	0	128,000	128,000
	區次料		0	0	0	0	0
	会場観賞費	ジュニア+強化 両クラス合計	0	400,000	400,000	0	-400,000
	施設利用費	施設利用料・倉庫賃料	0	0	0	237,870	237,870
	保険料	ジュニアクラスのみ	0	300,000	300,000	248,898	-51,102
	制作機材費	ウェア代など	300,000	1,300,000	1,600,000	289,144	-1,390,856
	運送料		0	0	0	0	0
	印刷費	ジュニアクラストレーニング日誌制作代	0	100,000	100,000	141,600	41,600
	消耗費	トレーニング用品、自転車部品	0	750,000	750,000	36,704	-713,296
	通信費	通信(郵送、宅配便など)	0	0	0	11,326	11,326
	委託事業		0	0	0	0	0
	映像制作費		0	0	0	0	0
競技運営費		0	0	0	0	0	
補助対象 (小計 ①)			4,000,000	8,400,000	12,400,000	6,769,900	-5,630,100
JKA補助 対象外	食糧費	食糧費	0	200,000	200,000	3,147	-196,853
	その他	月謝課制分返還	0	0	0	10,000	10,000
	予備費	予備費	0	200,000	200,000	0	-200,000
補助対象外 (小計 ②)			0	400,000	400,000	13,147	-386,853
支出合計 (① + ②)			4,000,000	8,800,000	12,800,000	6,783,047	-6,016,953

収支科目別一覧		収入	支出	差引残高
	社内自己資金	2,000,000		
	JKA補助金(概算請求による)	2,250,000		
月謝	月謝収入	1,975,000		
月謝	休止分の戻し		10,000	
ウェア代	ウェア代	289,000		
レースエントリー	レースエントリー費	122,000		
レースエントリー	レースエントリー費		126,000	
追加イベント	旅費(合宿経費)	0		
謝金	謝金(コーチ)		2,000,000	
謝金	謝金(臨時コーチ)		1,610,000	
謝金	謝金(ブラウフロントコーチ)		550,000	
委託事業費	年間報告書作成委託料		350,000	
施設利用費	施設利用費		133,230	
施設利用費	施設利用費 ※施設利用料戻り(キャンセルなど)	28,460		
車両借上料	倉庫賃料		104,640	
通信費	通信(郵送、宅配便など)		11,328	
交通費	移動経費(高速、燃料)		28,360	
車両借上料	車両借上料(機材車、トラック)		780,000	
機材・備品借	機材・備品借上(固定ローラー、メンテスタンドなど一式)		360,000	
製作備品料	製作備品料(ウェア代含む)		289,144	
印刷費	印刷代(ステラノート、ゼッケン、パンフレット コピー代含まず)		141,600	
保険料	保険料(自転車保険、イベント保険)		248,896	
消耗品	消耗品(主に自転車部品、コピー用紙含まず)		36,704	
食料費	食料費(出先での飲料水など必要不可欠なものなど)		3,147	
		6,664,460	6,783,047	-118,587

6,783,047

0

事業の実施内容及び成果に関する報告書

1. 事業名

第3期サイクルロードレース地域型総合育成システム
Up B-ling System

2. 事業の実施経過

(1) 事務手続き関係

2019年

- 2月28日 平成31年度（活動第3期）申請書提出
- 3月31日 決定通知書受理
- 3月31日 事業の決定
- 4月1日 事業（活動第3期）の開始
- 5月1日 概算払申請書提出
- 5月9日 概算払決定（助成金額300万円のうち75%）
- 6月25日 概算助成金の受領（2,250,000円）

2020年

- 1月31日 平成31年度（活動第3期）中間報告書提出
- 4月20日 平成31年度（活動第3期）事業完了報告書提出

(2) 事務関係

2019年

- 4月1日 TRUTH BIKE 代表 鈴木真理 とトレーニングコーチ契約継続

3. 事業実施内容及び成果

4. 業界等において今後予想される効果

上記2項目について、以下資料を添付致します

- ・ 自己評価書（様式4）
- ・ レースリザルト
- ・ 効果測定

自己評価書

自己評価

①実施計画

平成29年度より開始した自転車競技者育成事業の活動3年目。元宇都宮ブリッツェン選手で元オリンピック日本代表でもある専門コーチ指導のもと、安全・安心で高度な育成システムを構築。

対象者は平成31年度4月より4～6年生になる栃木県内在住の小学生男女とし、自転車競技としての標準的なトレーニングや部活動の始まる高校生よりもさらに低学年のうちからロードバイクに触れる事で自転車競技への意識を高め、さらなる競技人口の拡大を目的とする。該当世代に到達時には全国レベルで競える技術力を持つアスリートの育成、さらには育成システムや集団行動を通してアスリートとしての総合力・人間力の向上を目指す。

②事業の実施結果

2019年3月16日(土)に宇都宮市競輪場にてトライアウトを行い、10名が受験うち8名(男子7名、女子1名)を合格とし、3期生として受け入れた。

1期生継続2名、2期生継続7名、3期生トライアウト合格者8名、計17名(前年度よりも生徒数4名減)で活動開始。

メインコーチには昨年度同様 元宇都宮ブリッツェン選手 鈴木真理氏(Truth Bike 代表)を継続起用。

毎週水曜・土曜のトレーニングの他に県内サイクルイベントやレースへ積極的に参加しチームや自転車運転技術向上のPRに努めた。

2020年3月以降は「新型コロナウイルス感染症予防対策」として活動を完全に休止を余儀なくされたが、途中退会者もなく総勢17名が今年度過程を修了した(うち4名の6年生は小学校を卒業)。

③事業の成果

例年新生生の加入直後は体力差から集団練習に追いつけない生徒もまま見受けられる。そのため活動序盤より陸上トレーニングを積極的に取り入れることで基礎体力の向上を図った。個人差はあるが初秋の頃には体力差から練習についてこれない生徒も同じ力量の生徒と同等までついてこらるようになった。

これまで「ブリッツェン☆ステラ」を卒業し強化クラスである「ブラウ・ブリッツェン U-15」へ入団した選手も同じ森林公園周辺でチーム練習を行っており、交流のある生徒はU-15(中学生)の選手と自主練習を共にしている。年上の選手との交流や仲間を気遣った行動は育成という当事業の成果と実感している。

年々レベルが上がってゆく「ブラウ・ブリッツェン U-15」の中には高校進学を機にトラック競技へ転向するため自転車競技部へ入部する選手もいる。

④自己評価

練習の前後に生徒だけでなく保護者とも対話できる時間をとり、お互いの信頼関係を深めるよう努めた。これにより体調面や精神面、機材類で保護者が抱く心配事を適時解消。保護者からの信頼は生徒の言動からも感じ取ることができた。事務局機能とコーチングを兼任することは保護者との連携が取りやすくなるため、よりスムーズな活動が実現的なものとなったと思われる。

また、2020年3月以降は新型コロナウイルス感染症予防のため活動を休止した。屋外活動が主ではあるものの、地域自治体や教育現場での実情を踏まえたもの。その中でも年度末恒例となっている「6年生を送る会」の中止は生徒・保護者の両方から残念がる意見が多いことに驚かされた。これは活動開始時4年生だった生徒が3年という時間を経て6年生となり、心身ともに成長し 別れを惜しまれるほど成長した証でもある。

⑤実施計画を踏まえた 事業全体についての意見・所感

4年生から6年生までの男女生徒となると体格・体力の差も大きく、トレーニング内容によってはついてこれない生徒もいる。そこで体力・体格・技術に合わせた3~4班程度の班分けをし、その班の中で回数や時間を調節し 余裕のあるものには高負荷を、主に小柄な生徒たちには低負荷のメニューを提示。大幅に遅れをとることなくトレーニングを遂行させることで生徒本人に自信を持たせた。この時、臨時コーチを技術指導や安全を確保できるよう配置した。

これからの活動拡大に向け指導者・補助者の存在は必要不可欠で、特に専門コーチは現役プロ選手のセカンドキャリアとして大きな可能性を含んでいるため 育成事業環境の維持・拡大、宇都宮だけに留まらず各地域にも進展できるようなシステムや練習環境の確立は今後の自転車プロスポーツ業界の発展に大きく貢献できるものと考えられる。

⑥ 倦れている点・課題・改善すべき点

活動初年以降メインコーチの変更もなく、事務局兼サブコーチも2年目ということもあり保護者・生徒たちとの関係も良好のまま活動を維持できた。これも練習前後のコミュニケーションや普段から連絡を密にとることでしっかりとした信頼関係を構築できたことに尽きる。

2019年終盤からの新型コロナウイルス感染症騒動についても社内で幾度となく協議を繰り返し、地域自治体や教育現場の意見を取り入れ早急で確実な対処を取り入れた。事務局と保護者の間で連絡を密に取ることで理解を得、スタッフ・チーム内でも大きな混乱も起きず事業を完了できた。反面2020年3月以降は中止アナウンスを入れてはいたものの、活動を突然打ち切ってしまったようにも感じられたかもしれないことを思うと 事態が終熄し事業活動を再開する際には その時期の決定と細心の気遣いをもって臨まねばならない。

⑦ 総合評価点

活動も3年目を迎え、登録生徒・排出生徒の数も増えてきた。今後彼らが活躍するであろうステージの活性化のためにも当事業の持つ意味は非常に大きいものである。身近な練習環境で汗を流す先輩やプロ選手の姿は目の当たりにすることで、自転車競技への意識が高まると共に 選手たちは彼らの憧れとなる。すべての基礎となる小学校高学年のこの時期にしっかりとした技術と確かな人間性・協調性を身につけられる育成事業の存在は自転車競技業界においても重要なものの一つであるといえる。

BLITZEN STELLA★

ブリッツェン☆ステラ

平成31年度(令和元年度)
活動完了報告書



Up B-ling System (アップビーリングシステム) とは

サイクルロードレース 地域型総合育成システムです。



Up ⇒ Utsunomiya Pride
(宇都宮のプライドと向上心)

Upbringing ⇒ 育成

B-ling ⇒ BLITZEN+RING(輪)を繋げた造語



アップビーリングシステムは
栃木県宇都宮市を拠点に活動するプロロードレースチーム「宇都宮ブリッツェン」により
世界と戦える選手を発掘し育て上げるための新しい育成システムとして
2017年に設立され運用しています。

栃木県には3つのロードレースチームがあり
ジャパンカップサイクルロードレースの開催や宇都宮競輪場の存在など
ロードレースや競輪などの自転車競技が身近にある環境土台があります。

他のメジャースポーツのようなジュニア層からの育成システムを構築することにより
広い範囲へ自転車競技の魅力を発信しつつ、競技人口の拡大と
プロ自転車競技者(ロード・トラック)として活躍できるアスリートを発掘・育成。

そして自転車を通して交通ルールや安全走行マナーを学ぶだけでなく、
集団行動やフェアプレイ精神を学ぶことでスポーツのみならず
日常生活においても優れた人間性の育成を目指します。

【活動内容】

第3期活動期間

平成31年4月1日 ~ 令和2年3月31日

日時、場所

毎週水曜：17時00分～18時30分 主に宇都宮競輪場
毎週土曜：13時00分～15時00分 主に宇都宮市森林公園

内容

ロードバイクの安全な乗り方から競技へ向けた本格指導
基礎運動のトレーニングなど

講師（コーチ）

プロロードレーサー（現役、元）に委託

アシスタントコーチ

ブラウ・ブリッツェンなどから要請

会費など

入会金 10,000円（事務手数料、消費税込み）

月謝 10,000円（消費税込み）

ウェア作成費用 25,000円（半袖シャツ長袖シャツ各1枚ずつ）

そのほかレース参戦にかかるエントリー費・移動費は各自負担



【コーチ紹介】

【総合育成コーチ】

鈴木 真理



TRUTH BIKE 代表
日本を代表するプロロードレーサー

略歴

- 2002年 全日本ロード選手権優勝
- 2003年 アジア選手権優勝
- 2004年 アテネ五輪 男子個人ロードレース日本代表として出場
- 2013年 宇都宮ブリッツェン加入
- 2014年 宇都宮ブリッツェン キャプテンとしてチームをまとめる
- 2017年 ブリッツェン☆ステラ コーチ担当開始
- // 12月 ブリッツェンを退団後 TRUTH BIKEを設立し選手育成業を行う

【トラック部門コーチ】

黒子 英明

元競輪選手
現宇都宮市市議会議員

小坂 敏之

日本競輪選手会 栃木県支部選手

【ロード部門コーチ】

柿沼 章

サイクルスポーツマネジメント株式会社 代表取締役社長
1997年、2001年 全日本自転車競技選手権大会個人タイムトライアル優勝

廣瀬 佳正

サイクルスポーツマネジメント株式会社 取締役
1998、1999年 全日本選手権U23個人タイムトライアル優勝
2005、2006、2007、2009年 ジャパンカップサイクルロードレース山岳賞
2012年 JBCF東日本ロードクラシック 150km優勝



【チーム名】

チーム名は「ブリッツェン☆ステラ」

「ステラ」とはイタリア語で「星」を意味します。
これからの自転車競技の世界で
輝く存在に成ってほしいという願いが込められています。

チームカラーには輝く星をイメージする黄色に決定。
英表記は「BLITZEN STELLA」です。

ロゴ

トップチーム「宇都宮ブリッツェン」のテイストを残しつつ
躍動感あふれる書体のロゴを制作。
「A」の中央部には星マークをあしらえました。
チームウェアなど関連物にはこのロゴを使用しています。

エンブレム



ステラのイメージカラー「黄色」と
競輪場から見える宇都宮タワーを
モチーフにデザイン



【制作物】

チームウェア



トップチーム「宇都宮ブリッツェン」の2019シーズンウェアと同じデザインをステラのチームカラー「黄色」をベースに制作しました。普段の練習以外にキッズレース参戦時も着用しています。ステラ生には半袖・長袖をセットで購入いただいています。(レーサーパンツの設定はありません)

ステラノート



ステラ生とコーチの間で日々のトレーニング内容や競技・技術の相談などに活用する「ステラノート」。実際にノートに文字を書くことで自己分析力・文章表現力を養います。表紙・裏表紙はウェアと同じデザインです。

【使用機材】



貸出自転車（提供元 株式会社カンセキ）
小柄な体格でも乗れる24インチの本格ロードバイクを貸出車両として用意
保護者負担を軽減することで競技人口の拡大を図る。
（適応身長135～150cm）

固定ローラー台

インドアトレーニングの要、固定ローラー
後輪の軸を挟み込むように固定しローラーを車輪に当てることで負荷をかけ、実走に近いトレーニングができる。
前輪は台座に乗せ高さを合わせる。
床には汗・傷防止のマットを敷く。



パイロン、カラーバー

閉鎖環境（駐車場など）に設置することでミニコースを作り周回練習に利用。
熟練度に合わせてレイアウトを変化できる。

ミニハードルなど

陸上トレーニング（腿上げ）に使用。
腿上げの動作はペダリングスキル向上に大きな効果をもたらす。
同様に梯子状のラダー、ミニマーカーを地面に置きステップ動作を行うことで下半身強化と同時にリズム感を養う。



【練習会場】



森林公園

緑豊かな自然を満喫できる公園の周囲は一般通行車両が少なく、公道走行の基本を学ぶ恵まれた環境です。
練習初期は小駐車場を閉鎖(要申請)し、パイロン・バーでミニコースを設定し周回することで基礎技術を身につけます。
中級者以上向けにジャパンカップサイクルロードレースコースもあります。公園内をランニングすることで基礎体力の向上を目指します。



宇都宮競輪場

宇都宮市・競輪選手会の協力により実現した練習会場です。
対向車や歩行者のいない安全な閉鎖区域で
高速集団走行等のより高度なトレーニングができます。
周回走行練習の他に定期的に500mタイム計測も実施しています。
照明設備で夕刻薄暗い中での練習でも路面の状態が確認できるため冬季でも安全なトレーニングが可能となりました。



宇都宮市体育館

屋外を走行するロードバイクの練習は天候に左右されやすいもの。
雨天時は空調設備の整う市体育館でローラー台で練習します。
高ケイデンストレーニングや定期的なポジションチェックも実施します。
アリーナ上部の周回コースではランニングなどの基礎運動を行います。
(要予約)



トヨタウッドユーホームすまいるプラザ(協力企業)

定休日のすまいるプラザの駐車場を拝借した閉鎖区域練習。
パイロン・バーでコースを設定し極小周回走行や
短区間でのスラローム走行でバイクコントロールの練習します。
一般公道では実施できない並列走行の練習は
集団走行等のレースシーンなど どんな場面でも
落車しにくい位置取りとセンスを磨きます。



【募集(トライアウト、平成30年度実施)】

ステラ生募集はトライアウト(実技試験)形式をとって選出します。
選考基準はランニングや跳躍などの基礎体力を基本とし、
団体行動やコミュニケーション能力を総合的に判定します。



選定種目

- 1,000m 持久走 : 競輪場トラック(1周500m)を2周ランニング
- ラダーステップ : 格子状に敷いたラダーの上で足踏み走
- トラック500m走 : 自転車で競輪場トラックを周回
- 立ち幅跳び : 助走無し跳躍

※キッズ用ロードバイクを所有していない方向けに
貸出バイクをご用意しています(24インチ、数量に限り有)。

対象	平成31年度に小学4~6年生になる 栃木県内在住の健康な小学生男女
募集期間	平成31年2月12日~3月5日必着
実施日時	平成31年3月16日 9:30~
実施場所	栃木県宇都宮市競輪場・競輪会館
概要	添付の通り
告知方法	Webにて告知、郵送にて受付
URL	https://www.blitzen.co.jp/team/stella/tryout/
申込方法	HPより応募用紙PDFを各自ダウンロード、郵送受付
合否発表	郵送にて個別通知



【指定レース】

通常の練習の他に以下のレースを「指定レース」として位置付け、チームとして参戦しています。日頃の練習成果を活かす場として、またこれからの経験となるような県内開催レースを選定。レースへのエントリー、会場までの移動はすべて本人(保護者)が行うことで今後の競技経験に繋がります。

出場時のチーム名は「ブリッツェン☆ステラ」とし、チームで作成したウェアを着用し参戦します。レース前には真理コーチなどからウォーミングアップと細かいアドバイスを受け本番に備えます。

- 2019年 4月27日 第8回もてぎエンデューロ春2019(キッズクラス)
5月12日 Jチャレンジシリーズ ホープクリテリウム 宇都宮クリテリウムステージ
6月 8日 Jチャレンジシリーズ ホープクリテリウム 那須塩原クリテリウムステージ
9月28日 Jチャレンジシリーズ ホープクリテリウム まえばしクリテリウムステージ
11月 2日 Jチャレンジシリーズ ホープクリテリウム 幕張クリテリウムステージ
11月30日 第16回もてぎエンデューロ秋2019(キッズクラス)



【足尾環境サイクリング】

ローソン緑の募金と栃木県みどりの県民会議の支援を受け、NPO法人足尾に緑を育てる会主催の「植樹&環境学習サイクリング」を計画。

午前中は「環境学習センター」(日光市足尾町)にて植樹について学習し 実際に植樹体験を行いました。午後は足尾銅山(備前橋山)を周回するサイクリングトレーニングを実施。脚力・体力・スキルなどを考慮した班分けをし、それぞれに見合った強度のトレーニングを行いました。



2019年11月以降世界的に流行してしまった「2019新型コロナウイルス」への政府や各自治体の感染症対策に合わせ ブリッツェン☆ステラの活動も2020年2月から徐々に縮小しました。



ブリッツェン☆ステラ第4期トライアウト

屋内（宇都宮競輪会館・会議室）での説明会を屋外実施に変更。実技スケジュールも短縮し生徒・保護者・スタッフのリスクを軽減できるよう工夫しました。

また、2020年3月以降は室内・屋外での活動を完全休止とし、「密閉・密集・密室の3つの密」を避けるよう各家庭に協力依頼を連絡。例年3月に実施していた「6年生を送る会」も残念ながら中止としました。結果として第3期活動は年度終了まで活動を休止した。



第2期「6年生を送る会」の準備風景

ブリッツェン☆ステラ発足時に4年生だった生徒も今季で卒業。生徒・保護者も楽しみにしていた会だったが、感染リスクと生徒たちの安全を考慮し中止。

ブリッツェン☆ステラ

第3回トライアウト日程

場所：宇都宮競輪場、競輪会館会議室

日時：平成31年3月16日 9:30～

9:00～	受付開始 → 競輪会館会議室へ
9:30～10:00	全体ミーティング（砂川、鈴木真理コーチ） ・ブリッツェン☆ステラについて ・スタッフ紹介、日程説明 トイレ休憩、着替えを済ませ 競技会場へ移動
10:00～11:30	準備運動→トライアウト ・ラダーステップ、立ち幅跳び、1,000m 持久走
11:30～12:30	《昼食休憩》
12:30～13:30	休憩終了後、自転車に乗れる格好に着替えてバンク内へ移動 （ご自身の自転車準備をお願いします）
13:30～14:00	自転車準備 バンク（トラック）走行練習 ・バンク走行に慣れていただきます（スタッフ並走）
14:00～14:30	トラック 500mタイムトライアル（自転車走行）
14:30～15:30	会館内会議室へ移動 自己紹介 総評 今後についての話
15:30頃	解散

- ・体調に不安がある場合は、早めにスタッフまでお声がけくださいませ。
- ・昼食休憩時間は外出可能ですが、午後の開始時間厳守でお戻りください。
（昼食お持ち込みの方は会館内会議室をご利用いただけます）
（ゴミ等各自お持ち帰りをお願いいたします）
- ・バッグなどお荷物は会議室に置いたままトラックへ移動します。
（貴重品の管理は保護者様にてお願いします）
- ・トイレは会館内、競輪場南側（簡易トイレ）にあります。
- ・単独でのバンク（トラック）の横断は不可です。
- ・写真撮影は可能ですが『観客席にカメラを向けて撮影は不可』です。
- ・保護者様はバンク南側場外にて見学が可能です（バンク内には入れません）。

ブリッツェン・ステラ トライアウト参加申込書

ふりがな		性別		本人顔写真 貼付 縦4cm 横3cm 裏に氏名記入
本人氏名		男・女		
生年月日	西暦 年 月 日 (満 歳)			
学校名	20 年度学年		年生	
住所 〒				
身長	体重	血液型	競輪場まで車で	
cm	kg	型	分	
自転車持込の有無	車種			
有・無				

保護者連絡先			
ふりがな		連絡先 1	
氏名	本人との続柄 ()	自宅等	
		連絡先 2	
		携帯等	— —
連絡用メールアドレス			

緊急連絡先 ※上記と異なる場合はご記入ください			
ふりがな		連絡先 1	
氏名	本人との続柄 ()		— —
		連絡先 2	
			— —

自己PR（自筆すること　スペースが不足の場合は別紙添付可）

【入会にあたっての承諾】

- ・私（会員および保護者）はブリッツェン・ステラトライアウト、及び入会にあたりブリッツェン・ステラの規約（別記）を遵守する事を約束します。
- ・活動時には、指導スタッフの指示に従い、他の会員と協調性を持って参加させます。
- ・体調を万全に整えて参加させ、本人の責任により本スクール内で起きた事故やけがに関しては、指導スタッフ及びサイクルスポーツマネジメント（株）にその責任を追及しない事を約束します。
- ・宇都宮ブリッツェン公式サイト及び広報媒体にて会員の写真及び映像を使用することを承諾します。

年　　月　　日

保護者直筆署名捺印

印